

土木学会第1回総会会長講演(抜粋)

会長 古市公威

専門ノ学会ニ会長タルコトハ学者ノ最名誉トスル所ナリ今度土木学会ノ創立ニ方り料ラスモ余カ其ノ第一回ノ会長当選シタルハ余ニトリテ無上ノ光榮ナリ茲ニ謹ンテ会員諸君ニ感謝ス

本会規則第二十九條ニ会長ハ一月ノ総会ニ講演ヲ為スト規定セリ演題ニ何ノ制限モ無キハ勿論ナルモ先例トナルヘキ場合ナルヲ以テ多少考フル所アリタリ前年ニ於ケル土木ノ重要事項ヲ報告シテ其ノ批評ヲ試ミル如キハ適当ナル題目ナルヘシ昨年ノ十一月三日倫敦ノいんすちち^①ト、おふ、しびる、いんじにあすノ発会ニ於テ会長ハ過去五十年間ニ於ケル蘇格蘭ノ工業振興及技術ノ進歩ト題シテ鉄道ヲ始メ港湾、水道、道路、運河ニ就テ講述シ終リニ市街發展ノ状態ヲ説テ結ヒタリト云フ此ノ類モ亦好題目ナリ然レトモ余ハ右等ノ例ニ依ラス土木学会ノ方針ニ就テ聊見ル所ヲ述ヘ諸君ノ考慮ヲ煩ハサントス是今日ノ場合ニ相当シタル問題ナリト思考ス(中略)

余ハ佛国ニ留学セリ佛国ノ教育ハ大体ニ於テ総括的ナリ所謂いんさいくろべで^②いかる、えていかる、えで^③けーしょんナリ就中余ノ学ヒタルえこーる、さんとらるノ如キハ1829年ノ創立ニ係リ其ノ当初ニ於テ(工学ハ一ナリ工業家タル者ハ其ノ全般ニ就テ知識ヲ有セサルヘカラス)ト宣言シ爾來此ノ主義ヲ守リテ渝ラス機械、土木、冶金、化学ノ四専門ヲ設クレトモ学生ハ一般ニ各学科ノ講義ヲ総テ聴聞セサルヘカラス分科ニ依リ課業ノ差別アルハ實驗設計ノ類ノミナリ此ノ制度タル学校創立ノ時代ニ在ッテハ兎モ角モ今日ニ於テハ一見無理ニシテ時勢ニ適セサルモノノ如シ佛国ニ於テモ反対ノ議論少カラス数年前ニ学校評議員ノ組織ニ一大改革ヲ加ヘタルモ是等ノ點ニ就テ調査セシムル為メナリトシテ反対論者ハ幾分カ期待スル所アリタルモ今日ニ至リ尚ホ成案ヲ得ス蓋佛国ノ現状ニ於ケル技師ノ位置、職務其ノ需要供給ノ情况等ヲ考察スルトキハ容易ニ決シ難キモノアル如シ同校ノ一教授ハ曰ク本校ノ卒業生ハ卒業証書ト共ニ一束ノ鍵ヲ得テ相当ノ地位ヲ得ル為ニ數個所ノ門扉ヲ開キ得ルコトヲ要スト此ノ言ヤ大体ノ事情ヲ察セシムルニ足ル而シテ又本校ノ卒業生ヲ始メトシ佛国ニ於テ高等ノ工学教育ヲ受ケタル者ノ専攻機關ハ如何ナルモノナリヤト云フニぞしえて、で、えんじ^④に^⑤める、しびるトテ我工学会ノ如ク工学各専門ヲ網羅シタルモノナリ(中略)

本会ノ会員ハ技師ナリ技手ニアラス將校ナリ兵卒ニアラス即指揮者ナリ故ニ第一ニ指揮者タルノ素養ナカルヘカラス而シテ工学所属ノ各学科ヲ比較シ又各学科相互ノ關係ヲ考フル指揮者ヲ指揮スル人即所謂將タル人ヲ要スル場合ハ土木ニ於テ最多シ土木ハ概シテ他ノ学科ヲ利用ス故ニ土木ノ技師ハ他ノ専門ノ技師ヲ使用スル能力ヲ有セサルヘカラス且又土木ハ機械、電気、建築ト密接ノ關係アルノミナラス其ノ他ノ学科ニ就テモ例之ハ特種船舶ノ如キ用具ニ於テ或ハせめんと鋼鉄ノ如キ用材ニ於テ不断相互ニ交渉スルノ必要アリ茲ニ於テカ(工学ハ一ナリ工業家タル者ハ其ノ全般ニ就テ知識ヲ有セサルヘカラス)ノ宣言モ全く無意味ニアラスト云フヲ得ヘシ而シテ又斯ク論シ來レハ工学全体ヲ網羅シ而モ土木専門ノ者カ会員ノ過半数ヲ占メタル工学会ヲ以テ恰モ土木ノ専攻機關ナルカ如ク見做シ荏苒歲月ヲ送リタルモ幾分カ怨スヘキ所アル如シ

故ニ本会ノ研究事項ハ之ヲ土木ニ限ラス工業全般ニ拡ムルヲ要ス只本会ノ工学会ト異ル所ハ工学会ノ研究ハ各学科間ニ於テ輕重ナキモ本会ノ研究ハ総テ土木ニ帰着セサルヘカラス即換言スレハ本会ノ研究ハ土木ヲ中心トシテ八方ニ發展スルヲ要ス是余カ本会ノ為ニ主張スル所ノ専門分業ノ方法及程度ナルモノナリ(中略)

人格ノ高キ者ヲ得ル為ニハ総括的教育ヲ必要トスル説ハ屢耳ニスル所ナリ西洋ニ於テ羅甸語ニ偉大ノ効果アルヲ認ムル学者少カラサルト共ニ我邦ニ於テ漢学ヲ以テ人物ヲ養成スヘシト説ク者多シ皆相応ノ理由アリ是等ハ本問題ニ直接ナキモ參考ノ價值アルヲ認ム

会員諸君希クハ本会ノ為メニ研究ノ範圍ヲ縦横ニ拡張セラレンコトヲ而シテ其中心ニ土木アルコトヲ忘レラレサランコトヲ(完)